

薬価算定に関する意見

意 見
薬価据置きが薬品製造中止（休止）による使用薬の選択肢が少なくなっている。収載された薬品においても購入価格の逆ざやが多く、技術料への食い込みが多い。
畜産領域の薬はオーファンドラッグや人ではもはやあまり使われなくなったものも多いので、薬価に関しては真に適切な価格を設定願いたい。近年、共済基準薬価が薬品原価を下回ることにより製造が中止されるケースがままあり、使用頻度が決して低くない薬品であるのにそのような理由で無くなってしまうことは非常に困る。古くて安価な薬品であるほどこの傾向がある。
医薬品で、子宮内挿入薬オーレオマイシンやタイレリア症のパマキン・プリマキン皮膚病薬サルセリン・キノピレンなどは、実際必要とされる薬であるが、メーカーなどは、儲けにならない薬を作らないため診療に不具合が生じている。農林水産省から欠品させないよう、また、復活させるよう指導をしてほしい。ゾロ商品はあまり出なくてもよい。
今回の薬価調査では、メーカー別に薬価の記載するようになってきている。これは、メーカーにより、価格が異なるためだと推測する。医薬品メーカーは、開発メーカーと後発品があり、開発メーカーは開発コストを薬価に転化するため必然的に高い。また、セミナーや情報など積極的に行い、獣医療の向上に寄与している。これらの費用も転化されている。現在の薬価点数表は成分で価格が同一である。調査する段階でメーカーを聞いてきているのに、点数表は同一成分なら同じ価格は開発メーカーと後発メーカーが同じでは、開発メーカーに分が悪い。かつては、先発品と後発品の価格が違っていた。価格だけで決めなければいけない診療所ではどうしても後発品にながれ必然的に開発メーカーの製品も下げざるを得ない状況になってきた。既に、先発も後発も価格差が無くなっているのかもしれない。そうであれば、大きな問題である。現在何が起きているか。開発メーカーがあまり医薬品の開発をしなくなり、後発品を販売するようになってきている。利幅が少なくなってきたため、在庫をあまり持たなくなり、欠品が多くなっている。医薬品の販売中止が出てきている。メーカー主体のセミナーが少なくなってきた。新薬が少なくなってきた。デフレスパイラルに陥っている。医学界でもジェネリックを医療費削減から進めているが、医薬品はメーカー別である。人の分野と同じように、メーカー別の価格を表示をする様にすべきであると考えます。薬価表の表記が与えた影響は大きく、このままでは新しい薬が出てこなくなる状況も起きてきます。是非、検討をお願いします。
薬価について、同じ製剤でもメーカーによって価格に幅があり、逆ざやになってしまうため、希望するメーカーの医薬品の購入をためらうこともあります。同じ製剤でも効果が同じとは限らないため、どうしてもそのメーカーの医薬品が使用したければ獣医師の自己負担となります。高価になってしまう理由等、メーカーの意見も参考にさせていただけるとありがたいです。
近年医薬品の仕入価格（競争入札による）が薬価より高くなるいわゆる逆ざやの商品が増加してきている。他県においてもこのようなことがあるようなので、実態に即した薬価見直しをお願いします。
近年、薬価点数の低下が顕著であり、購入価格より低い場合が多くみられる。薬価基準を設定するにあたり、この辺りを加味してほしい。
差損薬剤については、薬価の見直しをしてほしい。
薬品の購入金額と薬価の逆ざやが散見される（チオビタンC、カンメルブルー等）。
破傷風血清の薬価が、あまりにも購入価格と薬価が違いすぎ、多量に使うために使うだけ赤字になる、逆ざやの薬が増えてきている。
薬価は、仕入れ原価より薬価の方が低くなってしまうという以前はまれにあったいわゆる逆ザヤが出ないようにしてくれば良い。
当診療所の様な小規模診療所は薬品購入数が少なく仕入れ単価が高く薬品によっては消費税を入れると薬価よりも高くなるものがあり困っているので、何とかしていただきたい。
インフェゾール、エクテンシ液、スタマーなど薬価以内で買えない薬品が年々増加している（消費税増税をもっと加味してほしい）。大量に買えば安くしますと言われるが、弱小診療所では、大量に買えない。
診療点数、薬価について、消費税を明確にしてほしい。現状、薬価については、税込計算で一部損失がある。
内税だと消費税が正しく反映されていないと思われます。
薬価基準表については、消費税が上乘せされて仕入価格の方が高いものがあり、改正をお願いしたい。
薬価、注射料に関して 使用した薬品瓶や注射器は感染性廃棄物処理業者に処理を依頼している、燃やせるソフトボトルや薬品のから箱も営業ごみとして有料でありマニフェストの保健所の検査もある。購入金額のみでなくそれらも加味していただきたいと思います。